Ⅰ　地域の概要

1　気　象

十勝地方は、太平洋岸を除き大陸性気候であることが特徴で、春には、フェーン性の乾燥した季節風が日高山脈を越えて強風となることがある。夏は、海岸部では海霧が立ちこめ日中の気温はあまり上がらないが、内陸部では比較的高温が続く傾向にある。冬は、大陸性寒冷高気圧により低温が続くが、日高山脈で雪雲が遮られることから降雪量は少なく、晴天の日が多いのが特徴である。

年間を通じて、全国的にも有数の日照時間に恵まれ、年間降水量も少ない傾向になっている。

図１　管内図
本所及び５支所で普及活動を展開

2　人　口

管内の総人口は、336,986人(住民基本台帳：令和２年１月１日現在)で、全道人口(5,267,762人)の6.4%を占めている。　帯広市が166,043人と管内人口の49.3%、さらに周辺の音更町、芽室町、幕別町の３町を合わせた帯広圏では255,489人と管内人口の75.8%を占め、その割合は増加傾向にある。

年齢別人口では、14歳以下の年齢が平成28年には12.5%だったが、令和２年には11.7%と減少する一方、65歳以上は28.5%から31.1%と年々増加し、少子高齢化が進行している。

3　産　業

管内は、農業、林業、漁業などの１次産業が盛んであり、特に農業については、産出額(令和２年)が全道シェアの約27%を誇る北海道農業の中心的な地域である。

就業者数の産業別構成比では、全道と比較して、特に農業従事者が多く第１次産業の割合が約２倍と高い一方、第３次産業の割合は低くなっている。しかし、その推移を見ると、第１次産業及び第２次産業の構成割合は徐々に縮小し、第３次産業は拡大を続けている。

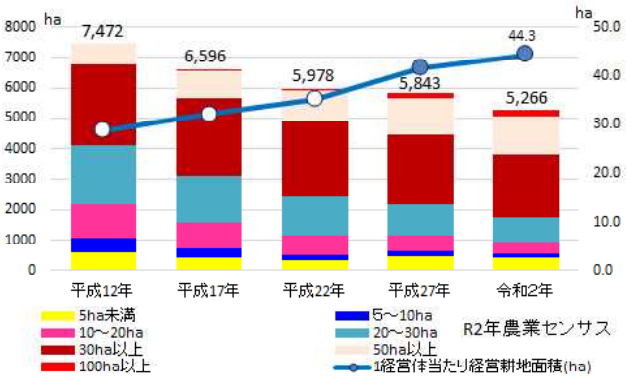

図２　規模別経営体数及び1経営体当たりの面積推移

4　農　業

十勝は、豊富な土地資源とすばらしい自然環境に恵まれ、規模拡大や基盤整備を進めながら、畑作や酪農を中心とした大規模農業経営を展開し、我が国の食料供給を担う重要な役割を果たしている。

管内の耕地面積は令和２年で233,024haと全道の22.7%を占めている。

１経営体当たりの耕地面積は令和２年で約44.3haと大規模な畑作経営となっている(図２)。

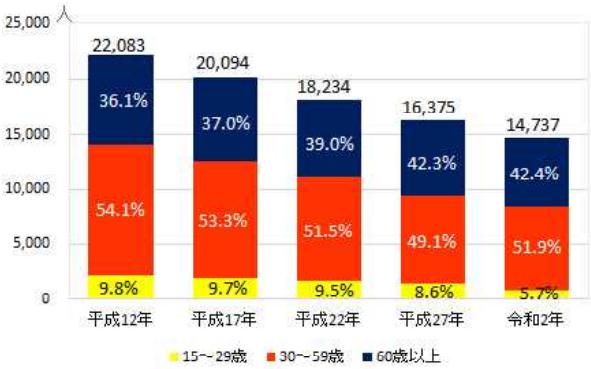

図３　年齢別農業就業人口の割合

農業就業人口は年々減少しており、令和２年で14,737人、そのうち42%を60歳以上が占めており、高齢化が進んでいる（図３)。

畑作は麦類、豆類、ばれいしょ、てんさいの畑作４品目を主体とした輪作体系が確立され、多くの品目で全道一の生産量となっている。

野菜は、長いもやだいこんなどの根菜類をはじめ、スイートコーンや葉物など多種多様な品目が生産されている。また、主要品目である長いもを筆頭に、えだまめ、ゆり根などが海外へも輸出されている。

酪農は、１戸当たりの乳牛の飼養頭数が年々増加しており、令和元年度で188頭と大規模化が進んでいる。また、令和元年度のホクレン受託乳量は1,229千トンで、全道の31.3％を占めており、全道最大の生産規模を誇っている。

肉牛の飼養頭数は、令和元年度で飼養農家戸数571戸、飼養頭数213,867頭と飼養頭数は全道の41.7％を占めている。また、１戸当たりの飼養頭数は375頭と全道平均200頭の約1.9倍となっている。

令和５年度分の十勝管内農協取扱高（概算）は、耕種部門では1,403億円と前年比105％の取扱高となった。平年よりも気温が高く推移したことなどから、生育は総じて平年より早く進んだ作物が多かった。

畜産部門では、酪農は、個体販売額の低下や生産抑制及び猛暑の影響により生乳生産量が前年を下回ったが、期中の価格改定等により乳価が上昇したことから、前年比103％。肉用牛は、枝肉価格や素牛取引価格が下落したことから前年比95％となった。畜産全体では2,140億円と前年比100％となった。

令和５年度産の十勝管内農協取扱高は前年比102％の3,573億円となった（図４・５）。

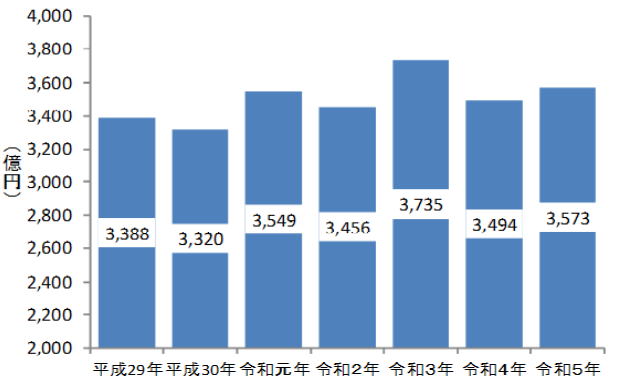

図４　十勝管内農協取扱高（概算）の推移

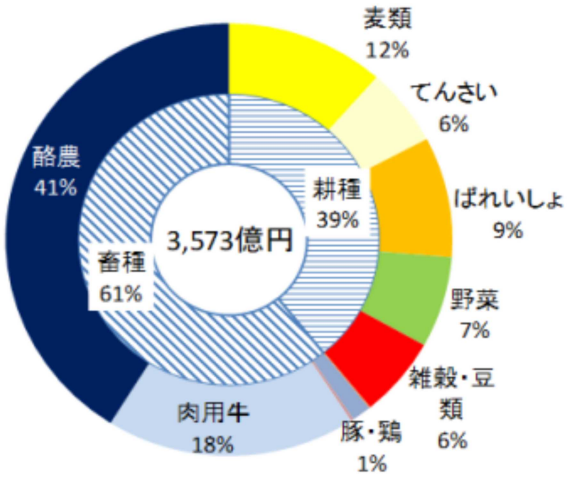

図５　令和５年産農畜産物に係る十勝管内農協取扱高の作目別構成比（概算）

資料：十勝農業協同連合会、十勝地区農業協同組合長会、十勝総合振興局産業振興部調べ

5　食の地域ブランド

十勝の農畜産物・加工品の付加価値向上を目指して、「安全・安心・美味しい」の基本コンセプトを軸に、「十勝産」加工食品のブランド化の取組が、財団法人十勝圏振興機構（とかち財団）を中心に進められている。平成19年から「十勝ブランド」の本格認証がスタートした。主原料十勝産100％、衛生・品質管理の徹底、官能検査（食味試験）等、厳しい基準をクリアした、チーズ、パン、お菓子、乳製品の47工房、146品（令和２年12月時点）が「十勝ブランド認証機構」により認証されている。

また、ナチュラルチーズは、近年、国際的なチーズコンテストにおいて入賞するなど、高い評価を得ている。国内はもとより、台湾など海外でも人気の高い「十勝川西長いも」（帯広市川西農協）が平成18年に「地域団体商標制度」の第１弾として認定されたのに続き、「大正メークイン」、「大正長いも」、「大正だいこん」（帯広大正農協）、「めむろごぼう」、「めむろメークイン」（芽室町農協）、「中札内村えだ豆」（中札内農協）、「十勝和牛」（ホクレン）、「十勝若牛」（十勝清水町農協）、「いけだ牛」（十勝池田町農協）、「しほろ牛」（士幌町農協）などが認定され、一層の販路拡大・利用者増が期待されている。